きのくに自主防災

第17号（平成27年10月号）

＜発行元＞
和歌山県自主防災組織情報連絡会事務局（和歌山県防災企画課内）

平成２７年度和歌山県防災啓発研修を開催しました！

県では、県民の皆さんの防災意識向上と防災知識の普及を目的とし、平成１６年から和歌山県防災啓発研修を県内各地で行っております。

今年度は、和歌山県、一般財団法人消防科学総合センター、那智勝浦町自主防災組織連絡協議会主催の防災啓発研修が８月２３日（日）に那智勝浦町体育文化会館で開催され、同志社大学社会学部の立木茂雄（たつきしげお）教授が「共生の防災をめざして～排除やバリアのない防災とは～」をテーマに講演されました。

立木教授は、東日本大震災で生活再建支援をした際に実感した災害時要援護者に関する課題を踏まえながら、普段から地域でどういった活動をしていくべきかについて講演されました。

説明では、東日本大震災での障害者や高齢者の死亡率を分析し、施設入居率が低ければ低いほど、また在宅高齢者が多ければ多いほど、津波による死亡率が高くなっており、この結果から、**「だからこそ、なおのこと」在宅の障害者や高齢者や難病の患者が、災害時にも地域の「共助のネットワーク」に包まれて暮らせるしくみをつくる**ことが重要であり、また、加齢に伴い在宅での生活が困難になった場合、**「自助」として安全な立地の住宅や施設に転居する**のも一つの対策になると述べられました。

また、地域における防災対策や計画にあたって、障害者・高齢者等の当事者も参画する**排除のない防災（インクルーシブ防災）**の必要性を強調されました。そして、そういった共生の防災を実現するためには、自主防災組織を中心に、自治会、地区社会福祉協議会、小学校、老人会、民生委員などの多様な地域団体と連携し、障害者・高齢者も普段から地域の避難訓練に参加することで、**地域力を高める**ことが重要であると話されました。

立木教授の講演を受け、古田善文（ふるたよしふみ）那智勝浦町自主防災組織連絡協議会会長は、「自主防災組織を取り巻く環境は、組織の高齢化、後継者不足など厳しい状況にあるが、英知を結集し、取り組んでいかなければならない」と挨拶されました。

（立木茂雄先生による講義）

（講演会の様子）

～ 県内自主防災組織等の活動紹介 ～

水尻地区自主防災会（有田川町）

水尻地区は、総戸数約５６０戸（約１５００人）が２６班で組織されており、有田川町内でも人口が増加している区の一つです。水尻地区自主防災組織は、平成１７年に発足され、現在、役員は会長、女性を含む副会長、広報担当や事務局の１１名で構成されています。

水尻地区は、有田川や湯浅湾からは離れているものの、巨大地震や集中豪雨などによる被災が想定されます。本組織は、想定外の災害が起こったとき、**どういった状況にも迅速に対応できるよう「減災への道筋をたてる」**ことを基本方針としています。また、有田川町消防本部によるテスト放送に合わせ、**毎月１５日を「水尻防災の日」**とし、普段から班単位のコミュニティにおいて各々の班長や防災委員が中心になり、防災意識を高めています。

○防災マップの作成

区民が多く集まる機会を利用した班内意見交換にて、それぞれの班の防災委員から聞き取りや意見集約を行っています。５月～６月にかけては区民に対して防災についてのアンケートを行い、地区広報にて集計結果を公表。防災意識を高めるよう区民に呼びかけました。

また、そういった機会を通じて、各班域、各戸名、消火栓の位置、井戸の場所等の防災マップ作りの基礎データを収集し、現在、水尻地区の避難場所や防災器具の位置等を示す防災マップの作成を行っています。今後、この防災マップを地区全戸に配布することを計画しています。

（作成中の水尻防災マップ）

○女性の防災研修会の開催

地区では、区の役員にも女性を積極的に登用するなど、女性の目線から見た防災対策にも重点を置いています。

区民からも、女性の立場から見た防災対策について勉強したいという意見が多く見受けられたため、地区では、８月１日（土）に県から職員を招き、女性の視点から見た防災研修会を開催し、区内の 55 名の女性が参加しました。参加した女性からは、「女性の立場で細やかな配慮が必要であることが分かった。今後は自主防災組織の組織づくりに当たり、女性の能力が発揮できるような役割分担を検討していってはどうか」等の意見が寄せられました。

○水尻地区夏祭りへの参加

８月 22 日（土）の水尻地区夏祭りにおいて、炊き出し訓練を行うとともに、ブースにて自主防災組織活動を紹介しました。

水尻地区の夏祭りは今年で 16 回目となる区の大きなイベントで、子供から大人まで区内の住民が多く参加しています。区の女性８名の協力もあり、約１００人分のカレーを、大きな窯でまきを割って炊くところから始めました。ブースでは、避難用品や作成中の防災マップ等の展示を行い、区民への啓発を行いました。

（炊き出し訓練の準備の様子）

上富田ふれあいルーム（上富田町）

「上富田ふれあいルーム」では、毎週土曜日に２時間程度、朝来（あっそ）小学校の３～６年生の登録者が「あっそ児童館」に集まり、手芸、クッキング、ゲーム等を楽しんでいます。平成２６年度、そういった日頃の活動に防災を取り入れ、災害時に「衣・食・住・災害時要援護者への配慮ができる」ことを目的とした活動プランが「防災教育チャレンジプラン」に採択され、平成２７年２月の活動報告会においては防災教育優秀賞を受賞しました。

朝来地区は、上富田町の内陸部に位置し、津波による浸水の危険性は低いものの、地震や土砂災害、洪水、内水氾濫といった災害に見舞われる可能性があります。

子どもたちは、「防災」を「勉強」ではなく、「遊び」としてとらえることで、楽しみながら防災知識を養い、日々意識を高めています。また、こういった取組によって、子どもたちは積極性や助け合いの心、責任感も同時に育てています。

○日常の活動に防災を取り入れる！

今回は、様々な取組の中から、昨年度行われた取組を１つ紹介します。

・避難所宿泊体験（１０月）

実際に避難所に指定されているあっそ児童館にて１泊２日の避難所宿泊体験を実施。「衣」の取組として、毛布を使用したガウン、買い物袋を使ったおむつ等を作成し、新聞紙で寒さを防ぐ訓練をしました。

「食」の取組として、自分のペットボトルの水を出しあって、ハイゼックス炊飯袋で炊飯したご飯とカレーを牛乳パックの容器で食べました。使った牛乳パックは、汚れないようにラップを敷いて使い、翌日のコンロの燃料にしました。

（牛乳パックの容器でカレーを食べる子どもたち）

「住」の取組として、テントも実際に立ててみました。夜の寝床作りとして、布団がないと仮定し、段ボール・古新聞・バスタオルを引いて寝ました。

（寝床作りの様子）

また「災害時要援護者への配慮」の取組として、車いすを使用する子、目の不自由な子どもなどの役を決め、車いすの介助や、手のひら書きでの言葉を伝え方を学び、お互い助け合って過ごしました。

避難所宿泊体験を通して、子どもたちは身の回りのもの(新聞等)が防寒具になるということや、水道から水が出ないことの不便さから水の大切さを学びました。また、実際の災害で、災害時要援護者がどういったことに不便を感じるかを体験し、自分がどんなお手伝いができるかを考えることができました。

☆その他の取組（あっそ防災手ぬぐい等の作成）

○遊びの心を持ちつつ、避難時には実際に活用できる「あっそ防災手ぬぐい」等を作成。使い方を子どもたち自身が説明したうえで、朝来小学校全世帯に配布しました。

中古沢地区自主防災会（九度山町）

中古沢地区は、九度山町の山間部に位置し、現在１５７名が住んでいます。地震や土砂災害、河川の氾濫といった災害に見舞われる可能性があります。特に、ご高齢の方が多く、若年層の人口も少ないため、いざとなった時の自主防災組織内の連携が重要となります。

このたび、中古沢地区で自主防災組織を結成してから初めての防災訓練が行われました。

その地域の地理的特性から発生する可能性のある災害への対応訓練を行い、最寄りの避難所等や自主防災組織の役割を定期的に確認することが重要です。

中古沢地区では、６月２８日（日）に防災訓練が行われました。この訓練は、避難訓練を通じ、住民の安否確認と安全確保を目的として今回初めて行われ、地区防災会、地域住民、消防団関係者など、約８０人が参加しました。

訓練は「局地的豪雨による土砂災害発生の恐れ」という想定のもと、集会所に避難する内容で進められました。午前９時に地区のサイレンが鳴ると、住民らが一斉に非常持ち出し袋を持って集会所へ避難を開始しました。

（避難訓練の様子）

集会所に設置された防災本部では、事前に作成した班名簿によって避難者をチェックし、迅速に避難状況を把握していました。

また、消防団員は地域の巡回を行い、まだ避難していない住民の状況の把握に努めていました。

その後、集会所において、消防職員の指導による心肺蘇生法の説明を受け、AED の操作方法を学びました。参加した地区住民の方々は熱心に話を聞き、講習会に取り組まれていました。

（班名簿による確認の様子）

（AED 訓練の様子）

地区自主防災会会長の中邑誠一さんは、「中古沢地区に自主防災組織が設立されて今回は初めての訓練でしたが、みんなが真剣に取り組み有意義であった。今後も訓練を行い、防災に対する意識・関心を高めていきたい」と話しました。

防災訓練に参加しよう！

内陸部の地域では、土砂災害や風水害への対応訓練を行い、最寄りの避難場所や、避難場所までの危険箇所、各機関との連絡体制を定期的に確認することが重要です。

訓練内容等の相談については、お住まいの市町村防災担当課へお問い合わせください。

「釜石の奇跡」の立役者・片田敏孝教授が知事表彰を受賞！

５月２５日、地方自治や教育・文化の振興、保健福祉の増進など各分野で功績があった、県民の模範となる個人・団体をたたえる平成２７年県知事表彰式が、和歌山市のホテルアバローム紀の国で開かれ、仁坂吉伸知事から５８人の方に表彰状が贈呈されました。

その席上で、和歌山県における地震・防災対策に多大な貢献をしたとして、片田敏孝（かただとしたか）教授（群馬大学大学院理工学府）が表彰されました。

知事表彰は昭和２８年から実施され、今回で６３回目の表彰となります。今回の表彰の特色として、長年にわたる地道な活動で功績があった個人・団体の役員や、専門知識や経験を活かして県に貢献した方々が選考されました。

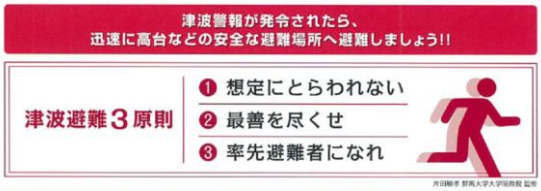
今回「暮らしの安全及び向上」の分野で知事表彰を受賞された片田教授は、平成１６年から岩手県釜石市の「釜石市防災アドバイザー」として、三陸地方に伝わる「津波てんでんこ」の教えをもとに、「津波避難三原則」（右図参照）等に基づいた小中学生の津波防災教育に取り組み、地域の災害文化としての災いをやり過ごす知恵や、災害に立ち向かう主体的姿勢の定着を図ってこられたました。このことにより、平成 23 年の東日本大震災において、岩手県釜石市内の小中学校では、全児童・生徒計約３千人が即座に避難。生存率９９．８％という成果を挙げました。２万人を超える死者・行方不明者が出た未曾有の大震災において、この事例は「釜石の奇跡」と呼ばれ、全国に防災教育の重要性を改めて示しました。

和歌山県においては、県教育委員会で「防災教育アドバイザー」として貢献。また県独自の避難先安全レベルの設定等、和歌山県地震・防災対策総点検専門家会議委員として様々な提言を行い、本県の防災対策に多大な貢献をしたことが評価され、今回の受賞に至りました。

また、片田教授には、田辺市のハザードマップの監修や、御坊市における防災講演会等の講師を務めていただくなど、県内の市町村の防災対策にもご尽力いただいております。

片田教授は、今回の表彰において最年少の受賞となりました。受賞を受け、「『さらなる努力を続けよ』との知事の励ましと受け止め、県民のために努力し続けることを約束します」と、受賞者代表として謝辞を述べられました。

（和歌山県知事表彰の様子）



（津波避難三原則）

（今回最年少受賞となった片田敏孝先生）

片田教授基調講演
平成２７年度津波防災講演会のお知らせ

※事前申込制（先着２７０名）

【日時】１１月3日（火）１３：３０～

【場所】湯浅町庁舎　３階なぎホール

【お問い合わせ】

和歌山県危機管理局危機管理・消防課

TEL 073-441-2273

避難カードを携帯しましょう！

平成２３年の東日本大震災では、たくさんの人が危険な場所に家族を迎えに行ったため、津波に流され亡くなりました。また、平成２６年の広島市の土砂災害では、安全ではない場所に避難してしまい亡くなった方もいます。

和歌山県では、事前に家族と話し合い、地震・津波や風水害時には県民一人ひとりが適切な避難行動が取れるよう、平成２３年度に**「避難カード」**を作成しました。

地震・津波や風水害が起こったとき、家族と一緒にいるとは限りません。一人ひとりの命を守るためには、あらかじめ家族で避難先や避難経路について話し合い、避難カードに記入し常に携帯しておきましょう。

いざというときには家族を信じ、全員がそれぞれに避難する意識をしっかりともっていただき、率先して避難をしましょう。わたしは逃げる！その姿勢が大切です。

命を守るための
家族との大切な約束
「避難カード」

財布や保険証のカードケースに入るサイズです。市町村の防災担当課窓口で配布しています。県 HP においても「避難カード」及び「避難カードの書き方」をダウンロードすることができます。

【参照】和歌山県 HP：http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/hinancard.html

◆ 防災わかやまメール配信サービス

県内の気象情報や地震・津波の警報・注意報などさまざまな情報をパソコン、携帯電話などに電子メールでお知らせします。

下記の配信サービス登録用 QR コードからぜひご登録ください。

防災わかやまメール配信
サービス登録用ＱＲコード
regist@bousai.pref.wakayama.lg.jp
上記アドレスに空メールを送信してください。

◆ 避難先の検索

- **避難先の位置確認は「Yahoo!ロコ」で！**

パソコンや携帯電話のインターネットから避難先を検索できます。

Yahoo!JAPAN が提供する Yahoo!ロコから、「ジャンル一覧」→「暮らす」→「避難所、避難場所」で検索してください（登録不要）

- **iPhone やスマートフォンをお持ちの方は**

アプリをアップストアや Play ストアで検索し、ダウンロードすると、GPS により現在地から避難先までのルート検索ができます。

ファーストメディア
「全国避難所ガイド」
http://www.hinanjyo.jp/

イサナドットネット
「逃げナビ～和歌山防災～」
http://bosaiapp.jp/

「きのくに自主防災」に掲載する防災活動事例を募集しています！

「きのくに自主防災」では、地域で防災活動に取り組まれている方々の活動事例を募集しています。
自主防災組織の訓練、普段の活動の取り組みや、学校と連携した防災活動など特色ある活動事例などをご紹介いただける場合は、下記の電話番号までご連絡お願いします。

※　紙面の都合上によりご紹介いただいたものすべてを掲載できない場合もございますので、予めご了承ください。

【お問い合わせ先】

和歌山県危機管理局防災企画課　ＴＥＬ：073－441－2271　ＦＡＸ：073－422－7652